1:25,000 都市圏活断層図「中津川」　解説

屏風山断層は，全長約49km中津川市下市付近から恵那市南部および瑞浪市南部を通り，土岐市駄知町に至る，南東傾斜で南東側上がりの逆断層帯である．南東側の屏風山山地を隆起させる変位様式をもつ．大局的には撓曲を伴う南東上がりの縦ずれ変位が卓越する．平均変位速度は0．3mm／年，最新活動，活動間隔については不明である（地震本部, 2004）．

このうち中津川図幅における屏風山断層は，中津川市霧ヶ原から同市向島付近に延びる長さ約16kmの北側下がりの縦ずれ断層として記載される．

比高のある断層崖の麓を通る断層にしては，変位地形が不明瞭．中津川市中垣外の南方では段丘面を切る低断層崖が発達するが，それ以外の場所では明瞭な変形地形は認めがたい．

蕨平断層は，中津川市蕨平から同市釜沢に延びる約3kmの北側下がりの縦ずれ断層である．屏風山断層から分岐するように配置し，上位段丘面に約20-25 mの上下変位を与えている．

手賀野断層は，中津川市手賀野から同市津戸井に延びる約4.8kmの北側下がりの縦ずれ断層．手賀野付近に北側低下の撓曲が確認できる．北東部は上位，中位 - 下位段丘面に各々23m，12m，5mの上下変位がみられる．断層の中部・南西部は地形が人工改変を受けて，位置や形態がやや不明瞭となっている．

恵那山（川上）断層は，中津川市の落合川上流部付近から中津川市川上を経て同市大根木にかけて，複数の断層線が線状に連なる総距離約13kmの北側または西側下がりの縦ずれ断層（位置やや不明確）．中津川市の正ケ根谷及びキャンプ場付近で横ずれの変位が確認でき，その変位による谷線も複数確認できる．この断層は，前山と恵那山との間の急峻な山地を走るので，変位の基準となる地形面が乏しく，活動度の判定は難しい．

飯沼断層は，中津川市飯沼付近から南方に同市大根木に延びる約5kmの縦ずれ断層．恵那山断層帯が大きくS字状に湾曲する位置に分布し，段丘面に上下変位を与える南北方向の活断層が数多く並走する．

奥ノ平断層は，　恵那山（川上）断層から分岐し，田代山断層付近まで達する約9km

の断層．また天狗森山方向への分岐も認められる．恵那山の北西側急斜面に鞍部列が直線状に走る．「新編 日本の活断層」（1991）でも確実度Ⅱの活断層としているが，変位基準となる地形面や第四紀層が伴わないので，推定活断層とした．

田代山断層は，恵那市の三森山から阿岳の北側にかけて長く延びる約10.3kmの推定活断層．「新編 日本の活断層」（1991）では，恵那山断層帯の東方延長部としているが，変位の基準となる地形面や第四紀層は無く，確実な変位地形も伴われない．推定活断層として図示したが，活断層の性質は不明．

本図幅において，新たに記載された断層は，恵那市小野川集落の北側に延びる約2.2kmの活断層，東側約0.8kmは，南側下がりの縦ずれ断層（位置やや不明確），西側約1.4kmは，河谷の横ずれが複数個所確認でき，横ずれの変位が認められる．鞍部の線状配列や河谷の横ずれ屈曲により，位置やや不明瞭の活断層と認定したが，長さは短い．

（京都大学名誉教授　岡田篤正）

参考文献

1) 地震調査研究推進本部地震調査委員会（2004）：屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯の長期評価について．
http://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/53_54_byobu_ena_sanage.pdf
2) 活断層研究会編（1991）：「新編日本の活断層―分布と資料―」．東京大学出版会，437p.